

# 凍結療法について

乳がんの手術において過半数を超える症例が乳房温存術を選択する様になり、近年一層の整容性が望まれるようになりました。そのため一部の早期乳がんに対し、切除手術の代わりに整容性が高い非手術的治療（超音波集束療法、ラジオ波熱凝固療法、**凍結療法**）が試みられています。

近年の、乳がん画像診断の飛躍的な進歩により、小さな非触知乳がん（触診ではわからない乳がん）の発見が増加しています。今後このような小さな乳がんに対する非手術的治療の必要性が高まると考えられます。

凍結療法は凍結そのものに鎮痛作用があるため、他の非手術的治療と比較して疼痛が少なく、局所麻酔下で施行できる利点があり、日帰り手術でおこなうことが可能です。日々の仕事や生活に多忙な日本女性にとって、日帰り手術で済む凍結療法は、小さな乳がんに対する治療の選択肢のひとつになると考えています。

当院では、2018年より早期乳がんに対する凍結療法を、臨床試験として実施しました。その結果、凍結療法を行ったすべての患者さんの乳房に乳がん組織は残っていませんでした。また整容性も満足できるものでした。

この結果を踏まえ、2019年、小さな乳がんに対する凍結療法の**自費診療**を開始しました。



# 凍結療法の適応になる方

- ◆ 組織診断検査で、浸潤性乳管癌と診断されている。
- ◆ サブタイプ診断で、**ホルモン受容体陽性、HER2タンパク発現陰性（DNA増幅なし）**かつ**Ki-67が20%以下**と診断されている。  
(ルミナルAに分類されるタイプ)
- ◆ MMG、エコー、CT、MRIで乳がんが**単発病変**で、かつ病変の広がりが**1.5cm以下**の乳がん病変である。
- ◆ センチネルリンパ節（SLN）が**陰性（がんの転移なし）**と診断されている。
- ◆ 凍結療法後の放射線治療が可能（聖マリアンナ医科大学病院での放射線照射）である事。

	増殖能 (Ki-67)	ホルモン受容体 (エストロゲン受容体) 陽性		ホルモン受容体 (エストロゲン受容体) 陰性	
HER2 陰性	低い	<b>ルミナルA</b> ・ホルモン療法	<b>70%</b>	<b>トリプル ネガティブ</b> ・化学療法	<b>10%</b>
	高い	<b>ルミナルB</b> ・ホルモン療法 ・化学療法			
HER2 陽性	問わず	<b>ルミナルHER2</b> ・ホルモン療法 ・化学療法 ・抗HER2療法	<b>10%</b>	<b>HER2タイプ</b> ・化学療法 ・抗HER2療法	<b>10%</b>

当科パンフレット「乳がんの治療を受けられる方へ」 p7より

# 凍結療法の適応にならない方

---

- ◆ 遠隔転移が診断されている。
- ◆ 浸潤性小葉癌、浸潤性微小乳頭癌と診断されている。
- ◆ MMG、エコー、CT、MRI検査で、乳管内病変や複数のしこりを認める。
- ◆ センチネルリンパ節（SLN）が陽性（がんの転移有り）と診断されている。
- ◆ 乳がんが、皮膚および大胸筋の近くにあり、凍傷の危険がある。
- ◆ 造影MRI検査が行えない。  
（腎機能低下、造影剤アレルギー  
体内に金属が入っている等）
- ◆ その他、担当医が不適応と判断した。



# 費用はいくらですか？

凍結療法は自費診療で45万円（税別）となります。

下記①～⑤は、通常の保険診療でご負担頂きます。

- ① 術前診断までの検査
- ② センチネルリンパ節生検・凍結療法で合併症があった場合の診察、処置
- ③ 術後放射線治療
- ④ 術後ホルモン治療
- ⑤ 術後経過観察に必要な検査



※ 医療保険にご加入されている場合、凍結療法が該当するか事前に保険会社へご確認下さい。

## 問い合わせ、連絡先

当院は予約制です。凍結療法を検討されている方は必ず、電話にてご予約ください。

予約の際は、予約専用番号におかけ下さい。

## 予約専用番号 (044)-969-7733

受付時間	
月～金	10:00～17:00
第2,4,5土曜日	10:00～12:30